ネイチャーセンターガイド（118）

新たな試みへ

先日、都留大社会学科の高田さんより声がかかり「エコカフェ（仮称）」を立ち上げるとのことだった。正直なところ、また横文字だと首をかしげてしまったが、熱い思いと活動スタイルに共感し、参加していこうと考えた。

また参加の理由には、いろんな人たちと出会えること。自分で家を建てた人、学生時代に店をオープンさせた人、大学の授業を休み、農業を営んでいた人、学校の先生や学生がいたりと実に様々である。

いろんな考えを持つ学生がいる中で『学生』といって一くくりにしてはならないと考えている。考えがユニークだし、自由だ。周囲を気にせず、ダイレクトにアピールしてくれる様は今の私に欠けている。学生はこれからを担う「若者」であることが最大の魅力だ。

ただし、店を出したり、農業をやったり、家を建てていたりすることが凄いことではないと私は考えている。その人と何かやりたいと思うならば、その人に惚れること。惚れることが義務ではないが「惚れた」と一瞬にして思ってしまったからだ。そこに情が生まれる余地はみじんもない。何かにいつも熱中しているから惚れるのだ。そこに魅力が生まれる。そこに引き付けられていくのだ。つまり、自分を他の誰よりも知っていて、個性を自ら引き出していて、そこに魅せられた人たちが、個性を伸ばしていき、新しい価値の創出が生み出せると勝手に思っている。

共感を得たものは「学ぶ」「カフェ＝人々のつながり」という点。私を含めて、今の大人に一番足りないもの。社会に足りないものだ。足りないものを補うことも、社会貢献。仲間と出会えた感もあった。

これまで2回の打ち合わせを行った。すでに「エコカフェ（以後フィールドミュージアムカフェ）」が始まっている。市内で「まちづくり」「アート」「有機農業」「自然教育」を実践している人たちが、勝手にしゃべり出す。しかし「勝手」と表現すると、当たり構わずな感じを受けるかもしれないが、そうではない。「実践」という裏づけの元に語るので言葉に重みがある。人が語るとはこういうことだ。打ち合わせが「フィールドミュージアムカフェ」の話しとなり、いよいよ白熱していった。

基本構想や組織を先に作ってしまう傾向が強い現代だが、それは対外向けのＰＲで、実は中身が詰まってなく、共感を得にくいことはわかっていた。作るだけで安心し、実作業は進まないことも知っている。なぜか、共通の認識を常に確認しないから・・・なのだ。

たくさんの人々の出会いを創出し、実践にこめた熱い思いを語ってもらう。これは、講義でも講座でもない。座談会でもない。書いている本人も知らない。ただ一つ言えることは、たくさんの人と出会えること、そして、新しい価値観を目の当たりにできる機会ということ。ワクワクしている。

連絡・問合先　☎(45)6222
宝の山ふれあいの里ネイチャーセンター
開館時間：午前９時から午後４時まで
休 館 日：月曜日、祝日の翌日

県文化功労者賞を受賞されました

桂町在住の澤田洋一さんが、県内の芸術文化活動の顕彰制度である県文化賞を受賞され、11月15日にベルクラシック甲府で行われた山梨県文化賞表彰式において、表彰されました。

澤田さんは、県文化協会連合会副会長や県シニアコーラス連盟会長などを務め、県内の合唱の水準向上に大きく貢献された功績が認められ、受賞されました。また、市内においても市文化協会会長や東桂地域協働のまちづくり推進会会長を務めると同時に、音楽の普及にも取り組むなど、地域活動にも力を入れており、市内外を問わず多方面において文化、地域の振興にご尽力されています。

澤田さんは「身に余る光栄。生涯現役の覚悟で、県民文化の振興に力を尽くしたい」と受賞者を代表して謝辞を述べられました。

地域、文化の振興、その他多方面に今後ますますの活躍が期待されます。